

IBADAIVERS

多彩な者たちが学び、行き交い、探究している茨大のキャンパス。茨大広報学生プロジェクト&広報・アウトリーチ支援室&茨城在住の編集者が取材した“イバダイバース”の世界、ちょっと覗いてみませんか。

好発進!

地域未来共創学環

【特集 | 地域未来共創学環】

地域の未来を
切り拓く人材を、
地域と共に
育てる新学環

2

真の実践力を
育む3つの軸

1. ビジネス
2. データサイエンス
3. コーオプ教育

4

【ヒューマンライフシンポジウム】

池上彰「SDGs」から
日本の未来を見る

ジャーナリスト・池上彰氏が
茨大講堂で講演後に、
学生たちとディスカッション!

8

【コラム】 アカデミアIBADAI

研究に恋して

理工学研究科/基礎自然科学野
准教授 飯沼 裕美

10

イバダイと地域力

日立市かみね動物園×
千葉市動物公園×茨城大学

11

【茨大広報学生プロジェクト編集ページ】

茨大生50人アンケート!

12

茨大ほっとステーション

13

先生、ちょっといいですか?
～茨大教員の素顔を調査!～

14

茨大関連施設にDIVE!

15

【コラム & ニュース】

つながるイバダイバース

IBADAI NEWS UPDATE

16

03



特集 | 地域未来共創学環
地域の未来を切り拓く人材を、
地域と共に育てる新学環

地域未来共創学環

新設の学環で、分野・文理横断の学びと企業・自治体の協力による「コーオプ教育」を軸に、
地域の課題解決や新たな価値創出に挑戦する人材育成が始まりました。

2024年4月、茨城大学にとっては約60年ぶりとなる新たな学部相当の組織が誕生しました。その名は「地域未来共創学環」。キーワードはビジネス×データサイエンス×ソーシャル・アントレプレナーシップ。人文社会科学部・工学部・農学部が連係した分野・文理横断の学びと、企業や自治体の協力による「コーオプ教育」が特徴です。44人の第1期生たちとともに、茨城大学の新たなチャレンジが始まりました。

宮城県から沖縄県まで。
各地から集った44名の第1期生の
迸るエネルギー。

改修されたばかりの水戸キャンパス共通教育棟1号館。その玄関口に掲げられた「地域未来共創学環」の大きな文字が、太陽の光を浴びてきらきらと輝いています。
地域未来共創学環の第1期生として入学したのは44人の学生たちです。57%が茨城県内の高等学校出身で、そのほか北は宮城県から南は沖縄県まで、また「空き家問題に興味がある」「データサイエンスを学びたい」「起業したい」

と関心もさまざま。共通教育棟内に設けられた地域未来共創学環の「ラウンジ」を覗くと、ホワイトボードに描いたアイデアマップを前に議論をする姿や、学環生が新しく作ったサークルへの参加を呼びかけるチラシなどが目に入り、その溢れ出すエネルギーに思わず圧倒されます。
「学環」の字のとおり、多様な人・組織が協力して、「環」を描くように新たな学びを生み出し、さらに未来を創ることが目指されています。
ひとつめの「環」は、茨城大学がもつ多様な教育・研究資源の環。地域未来共創学環は、「学部等連係課程」と呼ばれるもので、茨城大学の人文社会科学部・工学部・農学部という

3学部をはじめとする多様な教員が協力して、分野や文系・理系の壁を超えた授業を提供しています。この分野・文理横断のカリキュラムで育てるのは、「ビジネス」と「データサイエンス」の知識・技術と、それらを活かして地域の課題解決を図り、新たな価値を創出する「ソーシャル・アントレプレナーシップ」。これらは、複雑な地域課題の構造を俯瞰し、多様なプレイヤーと協働しながら解決を導くために必要な力です。
ふたつめの「環」が、地域の企業や自治体などとのつながりです。地域未来共創学環の最大の特徴といえるのが、「コーオプ教育」。これは約3か月という長期にわたって、企業や自治体のメンバーとして、有給で実習を行いながら学ぶというもの。学内で学ぶ1年次の「プレコーオプ演習」、無給の実習を行う2年次の「プレコーオプ実習」を経て、3年次の夏から秋にかけて有給の「コーオプ実習Ⅰ」に学環の全学生が取り組みます。さらに希望する学生は、「コーオプ実習Ⅱ」として4年次にも継続して実習に取り組むことが可能。「コーオプ実習Ⅱ」を履修する学生は、実習先の課題解決などに関する企画・提言をまとめたレポートをもって、卒業論文に代えることもできます。その実施にあたっては、学生が学んでいる内容を踏まえて、企業や自治体とのよいマッチングを図り、具体的なプログラム作りを支える独自の専門職「UEA (University Education Administrator)」も起用。まさに、大学教育の新たなモデルを提示するものといえるでしょう。

大学と地域の企業や自治体が、
未来に向け教育を共創していく
必要性。

茨城大学では、必修科目を原則開講しない「iOP (internship Off-campus Program) クォーター」という期間を設け、学生たちの学内外での主体的な学びや活動をサポートしています。これまで多くの学生たちが、iOPを通じて海外研修やインターンシップといった多様な活動に挑戦し、それによって学びの「手応え」を感じたと報告するなど、成長した姿を見せてくれています。
他方で、茨城大学としても、教職員が地域の企業や自治体の関係者と交流し、課題について語り合う機会が増える中で、地域の持続可能な未来に光を照らすような、新たな教育のあり方を一緒に共創していく必要性を痛感してきました。その経験と 생각이、この「地域未来共創学環」の誕生に結実しているといえます。太田寛行学長は、「茨城大学の鈴木京平初代学長は、第1回の入学式で『野心、満々たれ』と呼びかけました。それから75年。この学環の存在は、私たちの新たな野心であり、そして、学生たちも大きな野心をもって、学び、動き出してくれることでしょ」と期待をこめます。
地域未来共創学環の学生たちの中では、水戸の魅力を発信するプロジェクトや、SDGsに関するサークル、プログラミングを学ぶ勉強会など、すでにいくつものコミュニティが自然発生的に生まれているようです。この勢い、まだまだ続きそうです。

地域と共に学び、地域の未来を共に創っていきましょう。

人口減少、地域の活力低下、空き家問題、人手不足、耕作放棄地など、地域にはさまざまな課題が山積しています。こうした地域の課題を解決していくためには、ひとつの学問体系を身に付けるだけでなく、文系・理系を問わず、分野を横断した学びが必要となります。また、データに基づいて判断する力を身に付けることや、新たな価値を創出する起業家精神を養うことも求められています。
地域未来共創学環のカリキュラムはまさにそれらを修得するものです。そしてその最大の特徴であるコーオプ教育は、企業や自治体など実際の現場で働きながら、大学で学んだビジネス×データサイエンスを実践し、その中で壁にぶつかったり、課題解決のための新たな提案を行ったりするものです。
本学環で地域の方々と共に学び、地域の未来を共に創っていきましょう。

地域未来共創学環長 福与 徳文



PROFILE | ふくよ なるふみ
1986年から国の試験研究機関において地域計画、地域づくりに関する研究に従事し、2014年より茨城大学教授、2024年より地域未来共創学環長。

コーオプ実習の協力団体 (2024年7月現在)

*プレコーオプ実習のみ

企業等 五十音順
(株) 旭物産／(株) 伊勢基本社／一誠商事 (株)／茨城いすゞ自動車 (株)／茨城県農業協同組合中央会 (株) 茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント／オリエンタルモーター (株)／(株) カスミ (株) 協立製作所／(株) ケーシーエス／香陵住販 (株)／(株) 常陽銀行*／新熱工業 (株) 関彰商事 (株)／全国農業協同組合連合会茨城県本部／東京海上日動火災保険 (株) 東京フード (株)／日東電気 (株)／(一社) 日本自動車連盟 茨城支部／(株) 東日本技術研究所 日立 Astemo (株)*／(公財) 日立地区産業支援センター／(株) 日立ハイテクソリューションズ (株) 日立パワーソリューションズ／(株) ベジタブルテック／水戸商工会議所／水戸ヤクルト販売 (株) (有) モーハウス*／(株) ヤマイチ／(株) ユードム／(有) 横田農場
自治体 団体コード順
茨城県*／水戸市／日立市／石岡市*／常総市*／常陸太田市／高萩市*／つくば市* ひたちなか市／鹿嶋市／守谷市*／常陸大宮市*／那珂市／筑西市／小美玉市 茨城町／大洗町*／東海村／大子町*／阿見町

開設記念式典が華やかに開催されました

2024年4月10日(水)、地域未来共創学環の開設記念式典が水戸キャンパスで開催され、関係の教職員や学生たちの他、コーオプ教育の協力企業・自治体からも多くの参加がありました。
太田寛行学長は、「今日参列している学環の第1期生は、新しい教育モデルを実践するパイオニアです」と呼びかけました。
来賓として出席した茨城県教育委員会の森作宜民教育長(当時)は、「高等学校での総合的な探究の時間において社会課題に取り組んできた生徒が、大学で専門的な知識技能を修得し、コーオ

プ教育で実践することで、理論と実践の往還を実現できることを期待しています」と挨拶。また、茨城県経営者協会の笹島寿夫会長は、「経済界としてもこの取り組みが成功するよう連携、協力することをお約束いたします」と述べました。
最後に新入生代表として意気込みを述べた大友麻有里さんは、「漫然と情報収集するのではなく、自分なりの視点、問題意識から主体的、積極的に学習し、課題解決に向けた多様なアプローチの仕方について学んでいきたいです」と決意を示しました。



開設記念式典で挨拶する太田寛行学長



来賓、学生代表を交えてテープカット

真の実践力を 育む3つの軸

地域課題の解決に必要な不可欠な、分野・文理横断の知識とソーシャル・アントレプレナーシップ。これらを確実に養うため、地域未来共創学環では「ビジネス」と「データサイエンス」というコアの学びに「コーオプ教育」を加えた、3つの特徴をもつ教育を1年次から展開していきます。担当教員と実習受け入れ先企業のご担当者地域未来共創学環の教育の特徴と今後への期待を聞きました。



地域未来共創学環
人文社会科学部 准教授
田原 静
たばら しずか

地域未来共創学環
工学部 講師
加納 徹
かのう とおる

仮説を立て課題に戻り
データ収集—この往復で、
真の地域課題に迫る。

2 データ サイエンス

PROFILE | 専門はマーケティング。主に中国地方の中小企業等を対象としたマーケティングの実務や調査に携わり、2023年に茨城大学に着任。

PROFILE | 専門は計測工学。学生時代からWEBアプリケーションやシステム開発に取り組み、現在も医療や教育に関わるシステムの開発に携わる。

1 ビジネス

理論や型の学びと
実社会の姿を学生のうちに
タイムラグなく体験。

マーケティングが専門の 田原准教授が語る「ビジネス」の学び。

ビジネスといっても、企業や民間団体、自治体などさまざまですが、ちょっと引いて見てみると、そこには人が集団でいて、集団が集まった組織があり、組織と組織があって、その間で人が交流し、モノやお金が流れている。経営学の学びを通じて世の中を見ると、それまでは家族が働いているひとつの会社というふうにしかに見えていなかった世界に、さまざまなつながりやレイヤーがあることが見えてきます。そして自分が何に興味をもち、生きていくのかという視点が広がります。

それは社会の現場にいれば学べることなのですが、地域未来共創学環では、そうした社会の実際の姿を、大学生のうちから見ることができます。理論や型を学ぶということと、実際を見るという

ことの間にタイムラグがなく、両方同時に体験しながら学んでいける。必ずしも学んだとおりにはいかないことを知るのも早いし、一方で実地で見てきたことをもう一度理論の側にあてはめ、場合によっては理論の方をリバイズできるわけです。私たち経営学系の研究者は、いかに実際の企業や現場に入り、データを集めるかということが大事なのですが、学環の学生にはその状態が最初から与えられている、それはある意味で羨ましいことです。

経営においては、勘や経験則だけに頼るのではなく、客観的なデータを使ってマーケティング上の意思決定に取り組むことがますます重要になってきています。一方、長年やっている現場の勘や人の直感も、見方を変えるとコンピュータにもかなわない優れたところがあります。勘がダメですべてデータに置き換わるということではないのです。長年現場で培われてきた経験的な知見がたくさんある

一方、熟練の社員が引退していくという中で、そこを客観的なデータを使って補い、共存していく。私自身、もともと西日本の地方都市で働いていて、親も中小企業の社員でしたから、中小企業のサポートをしていきたいという思いがあり、その延長線上に今の仕事があると思っています。

マーケティングや消費者行動というのは、調査対象の一つに消費者が含まれるんです。大学生や高校生も含めて、私たち全員、消費者なんですよ。ですから、自分たちの内面を調べたり考えたりするのが、マーケティング研究の第一歩なんです。何も大きなビジネスを新たに生み出したいということでもなく、自分の日常の買い物に目を向け、使っているものや着ているものについて、どうして自分はこれを買っちゃうんだろう、なんで好きなんだろう、その「好き」はどこから始まっているんだろうということを、ぜひ普段から考えておくとう良いと思います。

計測工学が専門の加納講師が語る 「データサイエンス」の学び。

技術を使って膨大なデータを高度に分析し、これまでわからなかったことがわかるようになるというのがデータサイエンスです。データサイエンスそのものに学問として取り組むという大学もありますが、地域未来共創学環の場合は、データサイエンスの知識・技術をツールとして身に付け、活用することを目指します。

データの分析はもちろん大切ですが、実はその前の段階、すなわちそのデータをどう活用できるかという見通しを立てたり、背景にある課題を発見したりすることもきわめて重要なプロセスなんです。何もないところから課題を見つけるというのはハードルが高いですから、まずは世の中にあるさまざまなデータを眺めてもらうことから始められればと

思っています。自治体や国が公開しているデータなどを眺めて「もしかしたらこういうふうになっているんじゃないか」という仮説を立て、課題に戻ってはデータを集めるという往復を通じて、真の地域課題に迫っていく。それを学生たちはこれから何度も体験していくことになるでしょう。

データを眺めて課題を抽出するというプロセスでは、プログラミングを駆使してデータを分類したり可視化したりすることも大事になります。地域未来共創学環に入学してくる学生は、必ずしもプログラミングの経験があるわけではありませんが、授業で扱うPythonのようなプログラミング言語は、すぐに取り込んで利用できるような深層学習のライブラリもかなり豊富なので、非常に簡潔にコードの記述ができます。短いコードでもそれなりの可視化、分析ができるということを、自らの手を動かして実感できれば、その後のデータの分析や解釈にも弾み

がつくと思います。

その上で学生に求められるのは、社会とコミュニケーションを取り、データ分析から得た知見を現場にフィードバックすることです。私の専門の一つであるWEBアプリケーションの開発も、現場での活用のフェーズで重要になるものといえます。どんなユーザーでもそこに何かしら情報をインプットすればアウトプットが返ってくるようなアプリケーションを提供できれば、現場でのアイデアの活性化や生産性の向上につながっていくはずです。

いざデータサイエンスを活用しようといっても、具体的に何に使えばいいかを考えるのが、実は一番時間がかかるんですよ。この学環に興味を抱いた高校生のみなさんには、「不便だな」「こうなったらいいな」と思うこと、あるいは「データがあったらうまくいくかも」ということを、普段から意識して書き留めておくことをおすすめします。

学環第1期生たちが語る 地域の未来への想いと 学びへの意欲



開設記念懇親会でのスピーチより

●僕の出身地には空き家やごみ屋敷などの問題がたくさんあります。そういった地域課題の解決方法を学んでいきたい。(宮城県出身) ●人口問題について危機感をもっています。地域の特色に合わせたまちづくりのプランを提案できるようになりたい。(茨城県出身) ●鉄道が好きです。将来は地元に戻って鉄道会社の再生に携わりたい。(高知県出身) ●高校時代に「SDGs研究会」という部活で、フェアトレードコーヒーや海洋ゴミに関するアプリケーション開発をしてきました。SDGsの達成には、地域の小さな問題の解決から始める必要があると考えてこの学環を選びました。(千葉県出身) ●好きな

数学を活かして地域で活躍したいという思いで進路を探り、ここにたどり着きました。(東京都出身) ●茨城県のために何かしたいと長年思ってきました。その夢を叶えるために、地域課題への取り組みについて学んでいきたい。(茨城県出身) ●東京にも人口減少の問題を抱えている地域がある。将来は都市と地方をつなげて循環させ、両方を活性化システムを考案したいです。(東京都出身) ●地元で過疎が進み、日中通りを歩いている人も少ない。でも桜はきれいで魅力はいっぱいある。その魅力を伝える方法を学びたいです。(茨城県出身) ●もともと空き家問題に興味があり、解決方法を勉強するためにこの学環を志望しました。(茨城県出身) ●祖父が経営者で、私も経営者を目指しています。さまざま

な企業を訪れる機会があることに惹かれてこの学環を選びました。(福島県出身) ●茨城に住み、東京の高校に通っていました。それぞれの地域の問題と関係性を考え、問題解決につながる考え方を身に付けたい。(茨城県出身) ●魅力はあるのに衰退してしまう地域がある。それはメディアの弱さ、発信力の弱さが影響していると思う。メディアの力で、将来的に茨城県や他の地域を支える活動がしたい。(茨城県出身) ●地元の商店街がすぐくさびれてしまって、夏なのにそこだけ氷点下のような雰囲気。そういった商店街を冬でも真夏のように熱く復興させる方法を学ぶためにこの学環に来ました。(茨城県出身) ●将来やってみたいことのひとつが、起業です。地域課題とビジネスを結びつける力をこの学環で

身に付けられると考え、ここを選びました。1期生としての自覚を持って、皆で盛り上げていきたいと思っています。(茨城県出身) ●データサイエンスを用いて地域をよりよくしたいの想いからこの学環を志望しました。将来は内閣府が推進するデジタル田園都市国家構想に寄与する人物になりたいです。(埼玉県出身) ●起業を目指していて、構想もほとんどできているが、内容はまだ秘密です(笑)。茨城県の水産業をうまく活用することを目論んでいます。(茨城県出身) ●地域の伝統や祭りに興味があり、そういった観点から地域の問題を解決する能力を身に付けられたいと思っています。(茨城県出身) ●分野・文理横断型の幅広い視点から学べることに魅力を感じて志望しました。活気ある1期生のみんなと一

緒に頑張っていきたい。(茨城県出身) ●近所の小さいスーパーのお客さんがだんだん減り、もう店がなくなってしまそう。それを解決できる何かを学べたらと思って来ました。(群馬県出身) ●高校時代にSDGsオンラインプログラムに関わり、外国の人と交流する中で地域問題に目を向けるようになった。観光地の混雑や外国人との共生について、自分ができることをここで探っていきたい。(茨城県出身) ●学生のうちから社会人の方々と働くことができるコーオプ教育にとっても魅力を感じています。(茨城県出身) ●水戸のまちの魅力を引き出し、まちに活気を生み出すための多様なアプローチについて学びたい。1期生としてみんなで学環を盛り上げていきたいと思っています。(茨城県出身)

地域の企業・自治体と共に 実践的な人材を育てる 共創教育体制

3 コーオペ教育

工業用ヒーター製造・販売 の新熱工業株式会社を学 生が訪ねました。

大谷社長 コーオペ実習で学生のみなさんに一緒にやってもらいたいことはたくさんあります。私たちは工業用の電気ヒーターを扱っているのですが、実は国内の「ヒーター業界」のマーケットの規模や全体像を誰も正確に把握しきれていないんです。それをデータの活用で可視化して、新たな営業につなげられればと思っています。

高塚 どういうことですか？

石野部長 たとえばコンビニのレジ横によく揚げ物が置いてありますね。あれをお店で調理するためのフライヤーに、弊社のヒーターが使われています。でも私たちのお客様はコンビニではなくて、コンビニに業務用フライヤーを納めているメーカーさんなんです。他には、金属や樹脂の熱加工にもヒーターが使われます。ですからあらゆる業界に関わっているはずなのですが、あまりに広すぎて把握しきれていないんですよ。でも、今後何十年と会社を維持していくためには、そこに挑んでいかなければなりません。

高塚 既に確立されているマーケットの課題を解決するのではなくて、未知のマーケットそのものを開拓していくというのはワクワクしますね。

大谷社長 創業者である父は嗅覚が鋭く、新しいところにどんどん飛び込んでいって取引先を開拓してきました。でも私たちは父と同じようにはできません。そこをデータの活用で補っていきたいです。

高塚 まだ活用できていないデータには、たとえばどんなものがあるのでしょうか。

若い新鮮な視点で当社のデータを見てもらうことが、新たなマーケットの発見につながると期待します

未知のマーケットを開拓すると思うと、とてもワクワクします

新熱工業株式会社
代表取締役社長
大谷 直子さん

新熱工業株式会社
総務部 部長
石野 信一さん

茨城大学
地域未来共創学環1年
高塚 悠史さん

茨城大学専門職
佐川 雄太UEA

石野部長 まずはこれまでの40数年の歴史の中で取引のあったお客様のデータですね。営業担当者が集めてくる情報が、弊社のすべての活動のもとになります。お客さんの中には1回きりで取引が終わってしまったところもあって、会社名や担当者名はわかっていても、それがどういう業界なのかちゃんとわかっていないという場合もあります。それらのデータを集約し、みなさんのような若い人たちの新鮮な目で見えて分析することで、点と点がつながり、新たなマーケットを発見することができるんじゃないかと思っています。私たちは視点が凝り固まってしまうところがあるので…。

高塚 直近の授業で、課題解決の基本的な手法として、情報を整理・分類するKJ法を学んでいて、これからプログラミングも学ぶので、そうしたスキルが役に立つんじゃないかと思います。新たな営業先の開拓というミッションはドキドキしますね。

大谷社長 もちろんすべてをお願いするということ

ではなくて、一緒に考えていければと思っています。実際に企業で体験しながら学べるという学環のすばらしい環境を存分に生かして、これから学んでもらいたいです。



新熱工業株式会社

1982年創業。各種工業用ヒーター、加熱機器装置の技術開発、設計、製造、販売を行う。茨城県ひたちなか市の第2山崎工業団地内に本社・技術開発センターを有する。2018年、経済産業省による「地域未来牽引企業」に選定される。

専門職UEAが、企業・自治体と 大学が「共創」するコーオペ実習 をコーディネート

地域未来共創学環UEA

佐川 雄太

さがわ ゆうた



UEAとは「University Education Administrator」の略で、大学教育を支援する専門職として、地域未来共創学環の開設にあたって初めて設けられた職種です。

UEAの主な役割は「コーオペ実習の企画運営」、「コーオペ実習における実習先と学生のマッチング」、「専門科目の履修アドバイス」の3つで、これらを行うことによって、コーオペ実習のスムーズかつ効果的な運営を図り、理論と実践をつなぐ重要な架け橋の一部を担っていきます。

地域未来共創学環は、地域のステークホルダーに学環の教育に関わっていただき、将来活躍する人材を共に育てていくという共創教育体制を取っています。学環の教育課程編成及び運営に関しては、企業、自治体、有

識者、本学教員を構成員とする「教育課程共創委員会」を設置し、学外の方々からも助言をいただいています。

コーオペ実習も、実習先と学環の共創により成り立っています。実習先の責任者、本学教職員を構成員とする「実習企画委員会」で、コーオペ実習の企画・評価・改善に対し助言・提言をいただきます。さらに、実習後には意見・情報交換の場として「実習連絡懇談会」を設けます。こうしてコーオペ実習の企画、実施、評価、改善などのPDCAサイクルを回し、地域から求められる実践的な人材を持続的に輩出できるような体制を実現します。

また、実習内容の検討にあたっては、企業や自治体に丸投げするのではなく、あるいは大学が全てを創ると

いうわけでもなく、実習先と学環が実習内容を共に創っていくことが重要です。

学生たちは実習先で行われている業務の一部に携わらせていただき、学環で学んだことを実践します。この実習内容は、UEAが、学環での学修内容に沿うように教員から専門的・教育的観点からのアドバイスを得ることはもちろん、実習先の業務内容や現場の状況をふまえて、実習先と学環の両方が満足するように丁寧な打ち合わせをとおして共に創っていくものです。

コーオペ実習の実施にあたっては、2024年7月現在で、県内の31の企業、大学と連携協定を結んでいる20の自治体に受け入れを協力いただくことになっています。自治体に関しては、茨城県と県内市町村合わせて

地域未来 共創学環

特集 | 地域未来共創学環

真の実践力を 育む3つの軸

ころに置いて興味をもってもらうとか。大事なのは仮説と想像力なんです。

武藤 すごくクリエイティブで楽しそうです。新しい発想をしていくことは、私たち地域未来共創学環の得意分野ですから。顧客の考えや行動を理解するという意味では、心理学も勉強しておきたいです。

渡邊マネジャー それから大切なことは、私たちはお客様の食と健康に深く関わっているということです。われわれが健康な食を提供できなければ、お客様の健康を良くすることはできません。また、高齢化、過疎化が進む地域では「買い物難民」の問題もありますね。そうした地域では、リアルな店舗を構えて待つのではなく、こちらからお届けする移動販売やオンラインデリバリーを提供しています。カスミの移動販売は自治体と協力しながら回る拠点を決めています。スーパーマーケットの取り組みは地域の課題に直結しているんですよ。

武藤 その視点はありませんでした。スーパーマーケットの顧客データの分析、活用が、単なる販売促進というだけでなく、地域の課題の解決につながるかもしれないというのは興味深いです。



株式会社カスミ

1961年創業のスーパーマーケットチェーン。茨城県内を中心に全国で195店舗を展開。独自食品「Miil KASUMI」、新ブランド「BLANDE」、移動スーパーやオフィススマートショップなど新形態も展開。新たな挑戦や地域貢献に積極的に取り組んでいる。

県内に45団体あるうちの約半数近くにのぼるものです。これだけ多くの自治体がコーオペ実習に協力くださるのは、全国的にみても珍しい体制といえます。

PROFILE | 茨城県水戸市出身。茨城大学教育学部卒業。大学卒業後、半年間の塾講師のあと、NPO法人において人材採用・育成や、就職・キャリア形成を支援するコーディネーターとして研修や就職イベントの企画・運営を担当。キャリアをとおして1,300名を超える学生・若者の就職に関わる。2023年4月に茨城大学にUEAとして着任。学生たちと積極的にコミュニケーションを重ねる傍ら、コーオペ実習の受け入れ企業・自治体を訪ね、実習プログラムの準備に動しむ。

池上彰「SDGs」から日本の未来を見る

ジャーナリスト・池上彰氏が
茨大講堂で講演後に、
学生たちとディスカッション！

2023年9月17日(日) 茨城大学水戸キャンパス講堂
主催：水戸市
共催：茨城大学・常磐大学・常磐短期大学
茨城キリスト教大学
企画運営：特定非営利活動法人M・I・T・O 21
企画・演出・運営……………茨城大学人文社会科学部
村上信夫ゼミ（メディア論）
司会……………小山 慧菜
アンケート結果発表……………松尾 実咲
構成・演出……………刑部 香歩
フロア……………藤岡 美羽、山下 諒人
照明……………浅沼 優衣
＊2024年3月卒業生を含む



池上彰さんの講演会の企画という、突然現れた大きな機会、チャンスにわくわくしながら取り組みました。池上さんと学生がどんなことを話したら面白いかを考える中で、古市憲寿さんの著書『絶望の国の幸福な若者たち』に記されていた「若者は『幸せ』と同時に『不安』を抱えている」という内容に興味をもち、私たち若者の「不安」の実態を探るべく、500人規模のアンケートを実施しました。そこからは、将来貧困に陥るかもしれないという不安を抱えつつも、「行動の仕方がわからない」と言っ

て何もしない学生たちの姿が浮き彫りになりました。その意味で、講演会で池上さんが話していた「私たち世代は若いとき、たくさん大人に怒っていましたよ」という言葉にどきとしましたね。今が幸せと感じるのは良いこと。しかし、だからと言って周りの状況、日本の将来に無関心でいいわけがありません。今の自分の無関心さを反省するとともに、考え、行動するべきだという思いを持つことができました。

2023年9月17日、ジャーナリストの池上彰さんをゲストに招き、水戸市主催、茨城大学・常磐大学・常磐短期大学・茨城キリスト教大学共催による「ヒューマンライフシンポジウム2023『SDGsから日本の未来を見る』」が、本学講堂にて開催されました。学生や一般市民など約500名（オンラインを含む）が参加しました。

第1部 基調講演 SDGsから日本の未来を見る

司会の紹介を受けてステージに登場した池上氏は、SDGsの中の「貧困」と「ジェンダー」を取り上げ、かつての日本社会に明らかに存在していた貧しさや職場における男女格差——たとえば日本各地にあったスラム街の様子や、女性社員採用時の“容姿端麗”という条件、女性アナウンサーの“25歳定年”など——今では想像し難い事実を紹介。そして、見えにくいけれど現代の日本社会にも確実に相対的貧困やジェンダー格差が存在していることを示し、2部のテーマである「若者の怒り」への考察も盛り込む内容で会場を引き込みました。

第2部の冒頭では、「若者の意識調査」の結果が発表されました。これは、SDGsやジェンダーや幸福感に関する茨城県内の大学生の意識を調査したもので、対象者は共催に名を連ねる3大学1短大の552人の学生。出身県の割合は、茨城大学のみ県外出身者が県内出身者を上回りましたが、全体としては県外が35%、県内が65%でした。調査の結果、「女性は男性に守られる存在だと思う」との回答が約40%あるなど、学生自身がジェンダーの平等にプレーキをかけている姿が浮き彫りに。SDGsについては、「知識・関心はあるものの、自分ごととしてとらえていない」という消極的な態度が明らかになりました。また、80%以上の学生が

「自分は今幸せ」で70%が「現在の暮らしに満足している」にもかかわらず、68%の学生が「将来に対して自分が貧困に陥るのではないか」という漠然とした恐怖のような不安を抱いていることも判明——ただし、その不安は、世界の貧困や国内の格差といったSDGsの問題には向かわず、内向きであるという、「少し残念な茨城県の大学生の姿が見えてきた」との報告がなされました。

第2部 激論！ 池上彰×大学生 『若者はなぜ怒らない？！』

壇上と客席1列目に20名の学生が着席し、いよいよ池上彰 vs 大学生による「若者はなぜ怒らない？」がスタート。学生がひとりずつ池上氏に質問を投げかけ、それに池上氏が応えていく形式です。

学生 若者は、自分たちが相対的貧困に陥ってしまうという不安を抱えているのではないか。これまでの日本社会にあった安定した価値観が崩れているからだと感じる。
池上さん 若い人は、人生経験も少ないのだからいつの時代も不安を感じて当たり前。確かに今はかつての安定的な社会ではない。私の就職活動のころに輝いていた企業が今は凋落していることも。ただ、それも歴史をたどればずっと以前から繰り返されてきたこと。将来が不安なのは当たり前と、ちょっと居直ってみてほしい。自分の人生、これからのことは自分で考えるしかない。
学生 AIにとって代わられない職業に就けるよう大学在学中に伸ばしておくべき能力や心がけておくべきことは？
池上さん AIの台頭でかなりのモノがなくなる一方で、新しい職業も生まれる。私が子どものころ、バスには運転手だけでなく車掌が乗っていた。ある

いは駅の改札口に切符切りの人がいた。今はみんな機械に置き換えられたが、それ以外のところで新たな仕事が生まれている。AI、例えばChatGPTは、過去に起きている様々なデータを集めて整理するのは上手だが、データとして存在しないことには答えられない。人間にしかできない、創造的な仕事は確実にあると自信を持っていいと思う。
学生 僕は留学生です。日本で就職して貢献できればと考え、税金や医療保険を払い、成績についても自分では申し分ないと思っている。けれど、就職活動をしていくと、書類さえ受け付けてくれないところもあります。少子高齢化が進む日本は外国人を平等に受け入れる必要があると思うが、池上さんはどう考えますか？
池上さん そのような状況だから日本の企業はどんどん駄目になっていくんだと思うよね。日本は今、世界の先進国と比べると低学歴社会と言われている。例えば欧米の名だたる産業界のトップが博士号を持つことは当たり前だが、日本は学士どまり。そして日本の企業は、大学生が大学で学んだことをしっかり見ない。だから日本は30年間停滞していて、これを続けている限り減びの道を進むと思う。君のように日本語が非常に流暢で、優秀で、国際的な観点を持っている人材を欲しがっている会社はたくさんある。もっと視野を広げて探してみてほしい。面接もしないような会社は、自分から捨てよう。そんな会社はまもなく消えるから。
学生 学生へのアンケート調査で、将来に対して不安を覚える学生から、キャリアや投資など、将来の生活を考えることについて学んでいないという意見が多くありました。自分自身は高校や大学で体験学習の機会を得たのでそうは思わないのですが。
池上さん 機会があったというのは幸せなこと。私がアンケート報告で気になったのは、“教わらないから”という姿勢。高校までは学習指導要領が

あって、どう教えるかが決められているが、大学にはないでしょう。大学に入ったら自主的に学ぶことが前提となる。“教わっていないです”と聞くと、自分で勉強すればいいだろうって、つい言いたくなる。
学生 未来に対して無気力な人が若い人の中に増えているのではという気がします。「将来は地元のその辺の会社に適当に就職して、それなりに生きていけばいいや」という人が増えていると感じる。
池上さん 「その辺の企業に適当に入ればいい」というのはその辺の企業に失礼だね(笑)。でも、よくわかる。特に茨城は気候が温暖だし、恵まれている部分があるのかもしれない。その中でこぢんまり生活していくこともいいと思うけれど、でも、みんながその状態になることによって今、日本はどんどん貧しくなってきた。なぜ今こんなにインパウンドで世界中から日本に人が来るのかといえ、日本がこんなにサービスがよくて、美味しいものがいっぱいあるにもかかわらず、驚くほど安いから。外国の技能研修生は、もはや日本ではお金を稼げないから日本に来ないでしょう。日本は貧しくなっている。まもなく外国人に選ばれない国になるという、そういう危機意識を持った方がいいと思う。そういう感覚を得るためにも、若い人は一度海外に出て、日本の良さと悪さ、両方を見ることが重要だと思う。

「暮らしのあらゆることが政治に関連。積極的に意見を言えば、必ず届く」

学生 若者はなぜ怒らないのかが今日のテーマですが、逆に、若者が今の日本を良くしたいと考えるものだと、なぜ年長者の人たちが思っているのか。疑問に思います。
池上さん それはたぶん、例えば団塊の世代が、若い頃に貧しい日本を何とか良くしようといういろ

行動をしてみた、だけど、必ずしもうまくいかなかった、それを次の世代に期待するということだと思う。
学生 かつてのように怒って行動を起こしたり、バリエードを作ったりするには、自分たちが行動を起こすことで何かが変わるはずという希望が必要だと思いますが、それが今の日本にはないように思います。
池上さん フランスでは最近、年金の支給開始年齢を62歳から64歳にするという方針を政府が打ち出しにみんなが怒り、高校生たちも加わってものすごいデモが起き、ストライキがずっと続いた。なぜそんなに騒ぐのかといえば、「我々にはフランス革命の歴史がある。皆で立ち上がり世の中を変えたという成功体験があるからだ」という。韓国も同じだね。学生たちが立ち上がり、軍事独裁政権から民主化への移行を実現した1987年の成功体験があるから、今もすぐにデモを行う。その昔、日本の学生たちも、日本がすごく貧しくてそれが本当に目に見える形であったから、日本全体をみんなが平等に豊かになれる国にするべきだと、当時の学生たちは怒って行動していたのだと思う。
学生 今は、より資本主義的な、個人の幸せを最優先する考え方が進んでいると思います。どうしたら昔のように社会全体のことを考えるようになると思えますか？
池上さん それこそまさに政治の役割。政治家たちは、当たり前のことだけど、自分に投票してくれそうな人のために一生懸命力を尽くす。若い人たちは政治を縁遠く思うかもしれないけど、例えば学校に行くまでの道路がちゃんと整備されているか、学校の施設が古くなっていないか、暮らしの中のありとあらゆることが政治に関係している。何か気になることがあれば、地元の選出の市議会議員、県議会議員あるいは国会議員の事務所に積極的に行ってみるといい。それぞれ事務所があって秘書もいるから、意見は必ず本人に届くはずだから。



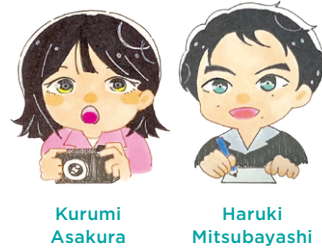
池上彰氏（後列中央）、村上ゼミのみなさん

茨大生50人アンケート！

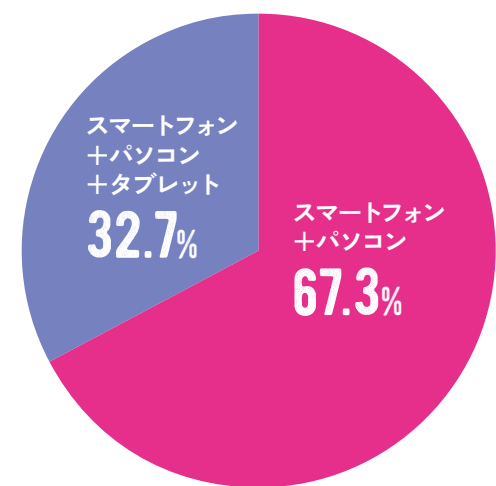
第3回「茨大生のスマホ事情」を徹底調査！！

大学生活にタブレットは必要？ おすすめのアプリは？
茨大生の最新のスマホ事情を解明します！

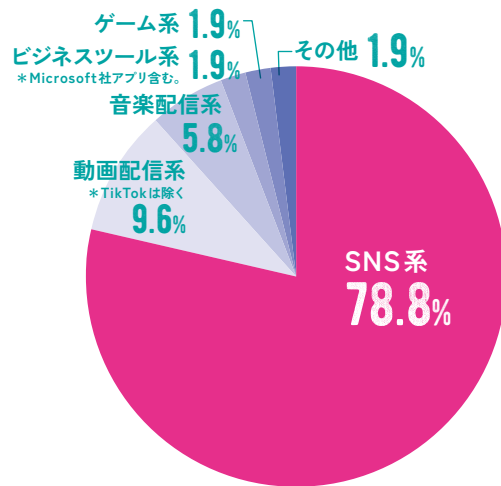
茨大生の実態に迫るべく毎号テーマを設定してアンケートを実施し、その結果を大公開しています。今回ご協力くださった52名の皆さん、ありがとうございました！



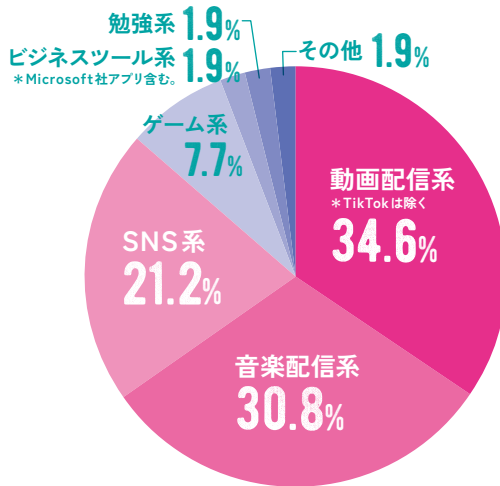
Q1 あなたが持っている電子機器は？



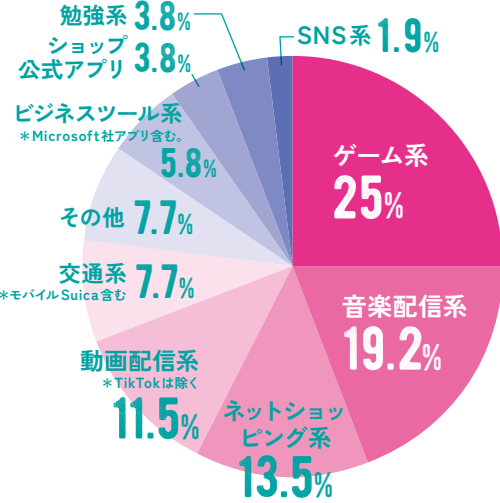
Q2 もっとも使用するアプリのカテゴリは？



Q3 2番目に使用するアプリのカテゴリは？

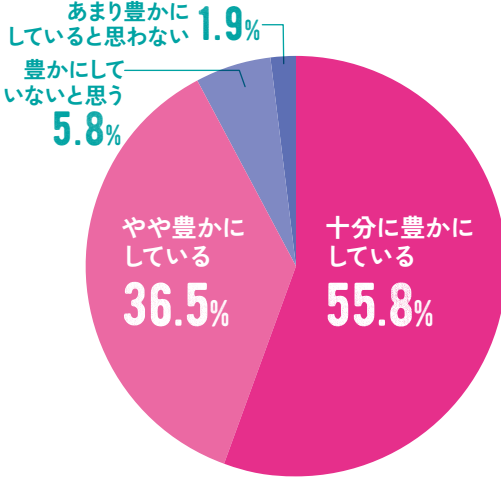


Q4 3番目に使用するアプリのカテゴリは？



【調査1について】大学で日常的に使用する電子機器を尋ねたところ、「スマートフォン（以下スマホ）」とタブレットのみを使用している人はいなかったことから、まず前提としてパソコン（以下PC）は大学生必携の媒体であることが分かりました。PCとスマートフォンを併用している人が6割以上でしたが、3割ほどの人がPCとタブレットを併用していました。タブレットを使用している理由としては、「もともとタブレットを持っていた」という人が多く、「パソコンと比べて持ち運びやすい」、「紙のノートと同じ感覚で画面上のデータに直接書き込むことができる」、「タブレットがあれば場所をとる教科書やルーズリーフの代わりになって便利」などタブレットならではの特性にメリットを感じる人や、「PCのバッテリーがなくなっても、タブレ

Q5 スマホの使用と日常生活の豊かさとの関係は？



ットを持っていれば十分に授業で使うことができる」といったPCと同様の機能を持つことに使用のメリットを感じている学生が多かったです。【調査2について】スマホでもっとも使用しているアプリについて尋ねたところ、学生の多くがSNSにもっとも時間を費やしていることから、人とのつながりや情報収集を求めてスマホを使う茨大生が多いことが分かりました。お勤めのアプリについても同様にSNS系のアプリが多く、先輩や同期とのつながりが圧倒的に増えるという理由で人気の高かった「X（旧Twitter）」のほか、「限られた仲の良い人たちだけ情報交換できる」というクローズドな空間でのつながりを目的に「BeReal.」を勧める意見もありました。また、「情報収集」の目的で使われるアプリとしては、

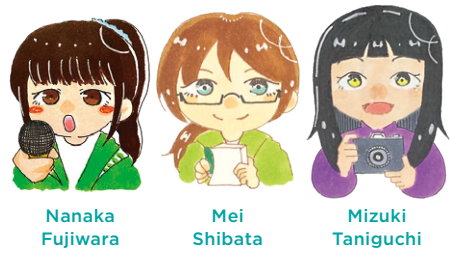
調査方法	Microsoft FormsによるWeb調査
調査期間	2024年2月1日～2月29日
回答者の所属学部内訳	人文社会科学部25名/教育学部4名/理学部5名/工学部10名/農学部6名/その他2名
回答者学年内訳	1年14名/2年20名/3年13名/4年3名/大学院生2名

「ブックログ」、「dマガジン」、「日経電子版」などの名前が挙がりました。【調査3について】最後に、スマホの使用と日常生活の豊かさについて尋ねると、90%以上の人が「十分に豊かにしている」、「やや豊かにしている」と答え、「音楽配信アプリのおかげで好きな曲がいつでも手軽に聴ける」、「時事ネタやうんちくなどの知識をすぐに得ることができる」など、スマホが茨大生の生活に彩りを与えていることがわかりました。その一方で、「時間をとられすぎることがある」、「使いすぎていることに本当に悩んでいる」とスマホとの付き合い方に悩みを抱える学生の姿も浮きあがりました。じつは、筆者は調査前にもう少しゲームアプリの使用時間が長いのではと予測していたのですが、茨大生はスマホを「人とのつながり」や「情報収集」を求めて使っていることがわかりました。最近ではキャッシュレス決済に欠かせない機器でもあり、スマホがますます日常に欠かせないツールになることは間違いありません。日々の生活に真の充実感をもたらす「スマホ環境」づくりを心がけていきたいものです。

茨大はつとステーション

茨大生の暮らしを支える熱血茨大サポーターズをご紹介します！

私たち茨大生の生活を支えてくれている学内外のさまざまな人物にインタビュー。
茨大生との関わりや想いなどを伺いました。



水戸市民と音楽の出会いを応援し続けて70年。 かわまた楽器店

SHOP DATA 茨城県水戸市泉町2-3-4 / 10:00～18:00・木曜定休



茨大の音楽系サークルとも長く深い関係の楽器店。音楽を楽しむ幸せをさまざまな形で地域に届けます。

茨城県水戸市には、約70年の歴史を持つ「かわまた楽器店」があります。楽器や楽譜の販売だけでなく、市内計13か所の拠点で音楽教室も開いています。音楽教室には子どもからお年寄りまで幅広い年代の方が参加し、ピアノやギター、エレクトーン、金管楽器、木管楽器など、豊富な種類の楽器を習っています。楽器が得意でない人にも音楽に親しんでもらえるよう、声楽やゴスペルといった歌のコースも設け、参加者の個性を尊重しながら日々指導に取り組んでいます。また、かわまた楽器店は、演奏する人たちだけでなく、地域のたちとの接点も大切にしています。市内の音楽イベントやお祭りに参加したり、ミニコンサートを主催したりと、音楽を通して人と人を繋げる活動を行っています。



取材に協力いただいたマネージャーの亀田恵子さん。かわまた楽器店は、さまざまな楽器や楽譜の販売はもちろん、祭りへの参加やイベント企画も積極的に行っています。

キャンパス内で焼き立てのパンを味わえる幸せ。 SHIEN BAKERY

SHOP DATA 茨城県水戸市文京2-1-1 / 8:20～15:20・土日祝定休



茨大キャンパス内にあるベーカリー。種類豊富なパンを焼き立てで味わえるとあって、茨大生に大人気です。

昨年4月に学内にオープンした「SHIEN BAKERY」。もともとは食堂だった場所が改装され、イートインスペースもあるモダンなベーカリーに。学生にも大人気で1日に320名もの人が訪れるといいます。特に、昼時は大盛況で店外まで続く長い列を見たことのある人も多いのではないのでしょうか。昼以外の時間帯も、居心地の良い空間で友達とおしゃべりを楽しんだり、1人で課題をしたりと、茨大生の憩いの場の一つとなっています。スタッフのおすすめは、バター濃厚さと塩味がクセになる塩バターパンと、カレーとチーズのハーモニーが絶妙なカレーチーズパイだそうです。私（谷口）のおすすめは、ほのかにチーズの風味がたまらないチーズダッチです。皆さんもぜひ一度味わってみてください！



専門のトレーニングを受けたスタッフの皆さんが毎日1100個のパンを焼きあげています。モダンな店内には居心地のよいイートインスペースありその場で食べることもできます。

先生、いいですか？

～茨大教員の素顔を調査！～

茨大教員約600人の中には意外な趣味や特技を持つ人物が…？！

大学の先生をどこか遠い存在のように感じている学生は少なくないかもしれません。でも、じっくり話を聞いてみると、意外と学生と共通するような趣味や感性を持つ先生も多くいるようです。今回は学生から見てもひと際フレンドリーな印象の、工学部と地域未来共創学環の2人の先生の素顔に迫ります。

学生はともに汗を流す仲間。
一緒にいろいろやるのが楽しい。



理工学研究科／応用理工学野
都市システム工学領域

小林 薫 教授

「親しみやすい先生」と工学部の学生が口を揃える小林先生。その人柄の背景に迫ります。

今回推薦してくれた学生から聞いたのですが、
民間企業に長く勤められていたのですか。

「茨大に来る前は総合建設業者、いわゆるゼネ

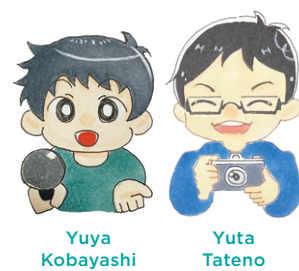
コンに28年間勤務していました」
企業での経験が影響していることはありますか。
「ゼネコン関係の人が訪ねてくることも多いので、うちの研究室は飲み会が多い(笑)。昔は現場に行った後は、必ず飲み会になっていたの、その習慣が続いています。そういうところでのコミュニケーションって大事ですね」

学生の反応はどうですか。

「ご馳走してもらえるので、喜んで来ますね(笑)。初対面の人との飲み会って気を遣うところもあると思うけれど、その体験からいろいろ学ぶことができる。コミュニケーション能力というのは社会に出たらどこでも必要となるから、身につける機会があれば、できるだけ提供したいと思っています。決して楽ではないですが、小林研究室での苦労は必ず将来良い思い出になると思っています」

それはいいですね、うらやましいです。

「ほかに、コロナ禍前は学生たちとひたちなかのリレーマラソンに参加していて、賞品を缶ビールにして勝負したりもしていました。何でもいからモチベーションを上げて、競争力や団結力を培ってほしいという想いからやっていました」



Yuya Kobayashi

Yuta Tateno

先生の学生への想いが伝わってきます。

「先生という感覚じゃないんです。自分自身も学生と一緒にいろいろやるのが楽しいんです。一緒に汗を流す仲間って感じかな。実際、民間企業でのリズムが染み付いていて、研究室にも一番早く来て一番遅く帰る存在になっている。いつも大学にいる感じなので、学生からしたら“ちょっと面倒くさい上司”のような存在かもしれません(笑)」

民間企業で得た経験を還元し、社会に出てからのことも考え学生との関係を深める小林先生。学生へのその想いが、親しみやすさの根源にあると納得した取材でした。



学生とともにリレーマラソンにも参加

特技の書のほかにも、懐メロやゲームを楽しんでいます。



地域未来共創学環
／スチューデントサクセスセンター

伊藤 雅一 助教

1年次の全学部必修の基盤教育科目「茨城学」を担当している伊藤先生は、多くの学生に知られた存在でしょう。授業では見られない意外な一面に迫ります。

趣味や楽しみとして行っていることはありますか。

「音楽が好きです。特に70～80年代のフォークソング、懐メロと言われるものが好きですね。気分転換に家でギターを少し弾くこともあります。あとは特技の書道を趣味として続けています」

書道は大変な腕前と聞いています。

「一応師範の資格まで取り、書を全国大会に出品したりしています。親が3歳ごろから「落ち着きがないから」と始めさせたようですが、以来、細く長く続けていて、始めた時からずっと同じ先生に師事しています。昨年度から、大学で留学生向けの書道の授業も担当することになりました」

学生に対して何か思うことはありますか。

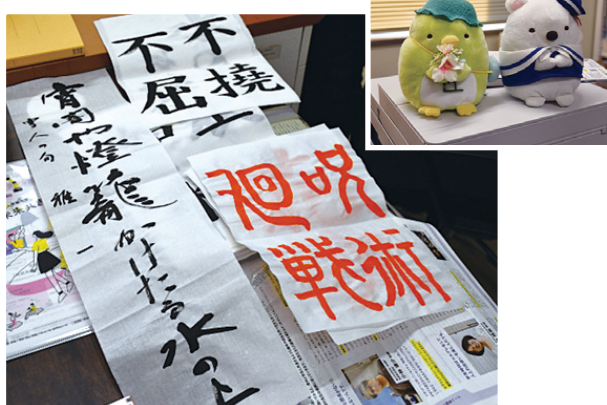
「茨大に来てから、長期休みになると大学の周りから学生が一斉になくなるのにはびっくりしました。一人暮らしの学生は帰省するのだと思いますが、せっかくなら一人の時間を満喫したらいいのにとちょっと思ったりもしますね。自由に時間を使えるのが一人暮らしのいいところだと思うので。自分は学生時代には実家暮らしでしたが、長期の休みには『ワンピース』や『ドラゴンボール』を一気見なんてしていました」

アニメが大好きなんですか。

「最近では新作を追えていないので、まあ嫌いじゃ

ないというくらいですかね。ゲームも好きですよ。ブックオフなどで研究に必要な本を選んだついでに、よくゲームコーナーも覗いています。家のスーパーファミコンがまだ動くので、昔名作と言われたものを買ったり遊んだりしています」

ひと際フレンドリーな姿を見せてくれた伊藤先生。書道が趣味の人や懐メロに詳しい人は、ぜひ授業以外でも声をかけてみてください。楽しく話が弾みそうですよ。

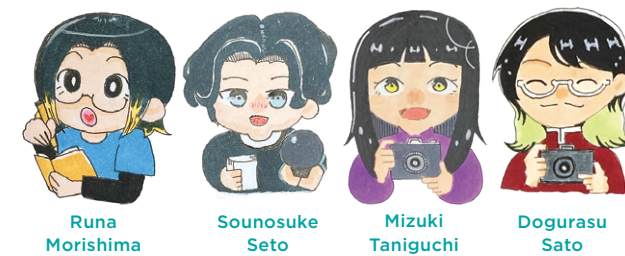


(右上) 研究室の中には可愛いキャラクターがたくさん
(下) 書は師範の腕前。留学生に依頼されたアニメのタイトルも。

茨大関連施設にDIVE!

茨大のさまざまな関連施設を学生視点でレポート!

県内各地に所在する茨大の各キャンパスや関連施設の様子を学生視点からお届けします!
第3回となる今回は、水戸キャンパスに通う学生向けの学生寮をご紹介します!



Runa Morishima

Sounosuke Seto

Mizuki Taniguchi

Dogurasu Sato

充実の共有スペースが自慢。
常設のピザ窯も!

水哉寮 (男子寮)

1年生から大学院生まで、さまざまな学部学科の学生がそれぞれに暮らす「水哉寮」。118名を収容できる茨大最大の寮のいちばんの特徴は、寮生たちの交流がとて盛んなことです。各階にある談話室でゲームや映画鑑賞をしたり、ワークスペースでともに勉強をしたり、寮主催の祭りが開催されたり、寮生みんなでビザづくりを楽しんだり。民間の集合住宅にはない寮ならではの触れあいがあり、学部や学年を越えた友だちをたくさん作りたい人に最適です。



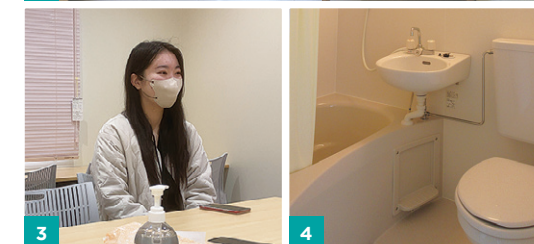
1 水哉寮の外観 2 1人部屋の内部の様子 3 話を聞かせてくれた寮長の根岸優希さん(人文社会科学部3年) 4 広々とした大浴場があることも魅力のひとつ

住所	茨城県水戸市文京1-7-12
アクセス	水戸キャンパスより徒歩9分
保全状況	令和3年度内装改修
収容人数	118人
寮費	11,600円(1人部屋/月額)
食事	3食自炊
居室	1人部屋:14m ² バス・トイレ・洗面台付き(3点ユニット式)
設備	エアコン、ベッド、机、椅子、クローゼットなど
セキュリティ	出入口オートロック、管理人配備

清潔感あふれる部屋は
2人用と1人用の2タイプ。

みずき寮 (女子寮)

令和3年に全面改修された女子寮は、最大50名を収容できます。個室のタイプは、2人部屋と1人部屋の2種類があり、共用スペースとしては、1階に談話室、各階に洗濯機、乾燥機、2人部屋入居者用のシャワーなどが備え付けられています。水哉寮に比べると共用スペースは少なめですが、寮のお祭りなどもあり、民間の集合住宅に比べると友達作りははずっとしやすい環境です。セキュリティ面も堅固で、初めての一人暮らしに不安を感じている人にはとくにお勧めです。



1 みずき寮の外観 2 1人部屋の内部の様子 3 案内してくれた重綾乃さん(農学部2年) 4 1人部屋のユニットバス・トイレ・洗面台

住所	茨城県水戸市文京1-7-12
アクセス	水戸キャンパスより徒歩9分
保全状況	令和3年度に全面改修
収容人数	50人
寮費	20,000円(1人部屋/月額) 10,000円(2人部屋/月額)
食事	3食自炊
居室	1人部屋 14m ² または17m ² /2人部屋 28m ² バス・トイレ・洗面台付き(3点ユニット式)
設備	エアコン、ベッド、机、椅子、クローゼットなど
セキュリティ	出入り口オートロック、管理人配備

留学生の生活を手伝いながら
異文化交流

国際交流会館 (おもに留学生向け)

国際交流会館には、主としてさまざまな国からの留学生が入居する国際色豊かな寮です。少数ながら会館チューターとして日本人学生も利用していて、ここで生活をしながら留学生の生活のお手伝いもしています。留学生とのコミュニケーションを深めたい人、インターナショナルな環境の中で生活してみたいという人にとってつけの寮です。



1 国際交流会館の外観 2 1人部屋(1DK)の内部 3 案内してくれた木村悠さん(理学部4年) 4 1人部屋(1K)の内部

住所	茨城県水戸市堀町977
アクセス	水戸キャンパスより徒歩15分
保全状況	平成元年～24年にかけて整備
収容人数	84人程度
寮費	5,900円(旧館1人部屋/月額) 20,400円(新館1人部屋/月額)
食事	3食自炊
居室	1人部屋(単身者用) 1Kもしくは1DK 風呂、トイレ(旧館はユニットバス・トイレ)
設備	エアコン、ベッド、机、椅子、冷蔵庫、コンロ
セキュリティ	管理人配備

保健室の役割と
目指すところ

2005年から農学部保健室の勤務がスタートしました。病院での勤務とは違い、果たしてどんな仕事が待っているのか、その勤めが果たせるのかと、緊張の初日を迎えたことを覚えています。

4月は学生健康診断があり、慌ただしく過ぎましたが、それが終わると何をしたらよいのかわからなくなりました。当然、内科や外科的な処置を求めて保健室を利用する学生や教職員がいましたが、その対応が常にあるわけではありません。

そこで、まずは「なんでも相談室」の役目もありましたので、どんな相談

も気軽にできる場所として、敷居を低くして利用しやすい場所をめざそうと、机の位置を変更し、来室した方へ尊重と歓迎を込めて、必ずすぐに立ち上がって迎えるようにしました。

しばらくすると、話を聴いてほしいという学生の利用者が出てきました。また、同じころに農学部にはカウンセラーが配属され、心理面での支援を必要とする学生との出会いがありました。彼らの多くが対人関係に困難さを感じている学生達でしたので、カウンセラーと共にコミュニケーションワークショップの開催を始めましたが、なかなか人は集まりませんでした。それでも新型コロナウィルス感染症拡大前までは毎月開催を続けてきました。

開催を続ける中で、参加した学生が就活のグループディスカッションで

リーダーシップを発揮し、一緒にグループ全員が合格したと嬉しい報告を受けたこともありました。

ご縁があってかわりを持った学生たちを通して感じることは、それぞれの困難さや悩みに向き合いながらも、一人一人がユニークであり、想像もしないような力を持ち、可能性に満ちている存在であるということでした。

皆さんにとって保健室はどんな場所でしょうか？ 怪我や体調不良で利用する所でもあり、またホッとする場所でもありたいと思います。特に疲れて、その歩みが止まりそうなとき、困難さや悩みの中にいる時、一緒にその場で寄り添い、慰め、励まし、応援し続ける場が保健室であったなら幸いです。



PROFILE

深谷 美架（ふかや・みか）

茨城県出身。看護師。米国CTI認定プロフェッショナル・コアアクティブ・コーチ（CPCC）／大阪ライフサポート協会PUSH認定インストラクター／ガーデニングが趣味で、今年もオープンガーデンを開催。



深谷看護師からの指名を受け、
今回の当コラムは

学部等支援部 日立地区事務課
学務グループ

青山 拓也さん

が担当します。

IBADAI News Update

茨城大学の最新トピックを
お届けします！

ヴァイオリニストの
五嶋みどりさんが
附属特別支援学校で
演奏会。

2024年6月19日、茨城大学教育学部附属特別支援学校で、世界的なヴァイオリニスト・五嶋みどりさんによる弦楽カルテットの演奏会が行われました。

ミュージック・シェアリングは五嶋みどりさんが主宰する活動で、これまで1000を超える施設を訪問しています。



附属特別支援学校の集会室で生徒たちを前に演奏するICEPカルテットのみなさん。

きっかけは、テレビで五嶋さんの活動を知った校内教頭の平野志穂教諭らがプログラムに応募したこと。同校では「子どもたちの内面や生活を『豊か』にする音楽・図画工作／美術・体育／保健体育の授業づくり」という研究テーマを掲げており、「本校の取組みに共感いただいたことが訪問先としての採択につながったのでは」と平野教諭は語ります。

今回同校を訪れたのは、五嶋みどりさん（ヴァイオリン）、エレノア・デ・メロンさん（ヴァイオリン）、笠井大暉さん（ヴィオラ）、アレハンドロ・ゴメス・バレハさん（チェロ）の4人による「ICEPカルテット」。

小学部のプログラムでは、各教室に4人のメンバーが分かれ、児童たちと身近な距離で触れ合いました。

その後の中学部・高等部のプログラムは、集会室での約1時間のコンサート。チャイコフスキーやベートーヴェンなどの有名なクラシック曲や日本の童謡の

「七つの子」など全7曲が演奏されました。じっと食い入るように演奏を聴く生徒、体を揺らす生徒、周りの生徒や教師に向けて笑顔を見せる生徒など、それぞれが思い思いに聴き入り、教師たちもそれぞれの生徒の鑑賞に寄り添うようなサポートをしていました。

五嶋さんから「もっと楽器の近くで見てみませんか？」と声がかかると、生徒たちも大興奮。それぞれ一番興味のある楽器のところへ集まり、演奏中の弦に触らせてもらったり、弓で音を出す経験をさせてもらったり。終盤の質問コーナーも盛り上がり、カルテットのみなさんは子どもたちと一緒に給食を食べて学校をあとにしました。

「偉大な作曲者たちが残した曲に触れてほしい、本物の音楽に触れることを通じて、探究心が育ち、世の中が広がったら嬉しい」と語った五嶋さん。貴重な時間をありがとうございました！

EDITOR'S NOTE

▶ 地域未来共創学環の誕生を記念した特集号、いかがでしたか？ 企業や自治体での「コーオプ教育」が最大の特徴。今回コーオプ教育の協力企業のうち新熱工業株式会社と株式会社カスミの2社を学環の「第一期生」たちと訪れましたが、両社の方とも現在進行形の本気の「課題」を学生たちに真摯に投げかけていて、学生たちはその課題をワクワクしながら受け止めていたのが印象的でした。有給のコーオプ実習は2年後。今から楽しみです！（広報・アウトリーチ支援室 山崎一希）
▶ 今第3号の編集長を務めました、茨大広報学生プロジェクトの柴田です。大学内外、様々な形で茨大を

支えてくださっている方々取材しました。意外なところにも縁を感じられて嬉しかったです。周囲に感謝しながら、これからも茨大のつながりを発見していきます！ 今号の制作に協力してくださった皆様、本当にありがとうございました！ 次号は新メンバーも加わり、より一層進化できるよう頑張ります。引き続きよろしくお願いいたします！（茨大広報学生プロジェクト 柴田芽依）
▶ 取材では大学が持つ多様で膨大な知に圧倒されてばかり。新学環は、その知をさらに地域へと広げる飛躍的なステップになると、学生の皆さんが放つエネルギーに直に触れ確信しました。（編集協力・笠井峰子）

広報紙「IBADAIVERS（イバダイバーズ）」は、
茨城大学ホームページからもご覧いただけます。



紙面アンケートを実施しています。
感想や次号で取り上げてほしい内容など、
ご意見をお寄せください。



アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名の方に茨城大学グッズをプレゼント！（回答期限2024年10月末日）